

平成27年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

校訓五綱領（剛健・質実・自重・自治・至誠）の精神と文武両道の教育方針の下、豊かな個性の伸張と人間性の尊重、陶冶に努めることにより、高い志をもち、国家・社会に貢献する気概に満ち、国際人として様々な分野で活躍するリーダーとなる人材を育成するため、特に次の能力を育むことをめざして全人格的な教育を行う。

- 高い知性、豊かな人間性、健やかな心身と強い意志をもって未来に生きる総合的な人間力
- 高い基礎学力と自学自習力を有し、自ら課題を発見し解決していく能力
- 自他を尊重し理解する能力に秀でるとともに、他者と協働する能力や自らの考えを世界に発信できるコミュニケーション能力

2 中期的目標

1 高い知性と確かな学力の育成

- (1) 授業の改善充実を進めるとともに、中下位層に対する指導と家庭学習の充実によって基礎学力の定着と自学自習力の向上を図る。
- ア 生徒による授業評価、研究授業、相互の授業参観を行って授業の改善充実に努め、生徒の授業理解度及び授業満足度の向上を図る。
 - イ 指名補習を定期的実施するとともに、「学習と生活のスタンダード」を活用して家庭での学習時間の確保を図る。また、自習室・図書館の利用を促進する。
 - ウ 主体的・協働的に学ぶ姿勢を育成するための学習・指導方法等を充実させる。
- ※生徒による授業評価の「授業理解度」が、3学年平均で80%以上をめざす。
- (2) 「言葉」と「体験」をキーワードに多様な学習の機会を開設し、生徒の自ら学び、考え、判断し、行動する力を育成する。
- ア グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）事業やスーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業等を活用し、生徒の英語活用能力、課題発見能力、論理的思考力、分析力、プレゼンテーション能力などの向上を図る。
 - イ 教科・科目の授業や探究活動においてICTを積極的に活用し、情報リテラシー（収集、選択、活用、編集、発信する能力）の向上を図る。
- ※4技能習得の基礎固め及び動機づけのため、第2学年の修了までに英検2級の取得をめざす。

2 高い志の育成と国公立大学への進学実績の向上

- (1) 3年間を見通した進路指導によって高い志と明確な目的意識を育成する。また、計画的な講習を実施して生徒の進路希望を実現する。
- ア 進路HRを中心に計画的な指導と情報提供に努め、主体的な進路実現を支援する。
 - イ 探究活動やSSH事業を通じて興味関心を深く掘り下げの中で進路を考える機会を増やす。
 - ウ 1年次から高い目標をもたせ、京・阪・神大をはじめとする国公立大学を目標とする指導を充実する。
 - エ 進路指導部が中心となって各学年で計画的な講習を実施する。
- ※京・阪・神大をはじめとする国公立大学への進学率を、35%以上をめざす。

3 豊かな人間関係を醸成する行事・部活動の振興と生徒指導の充実

- (1) 普通科・文理学科一体の学校行事と部活動、学校内外の体験活動を通じて豊かな人間関係と自主性、自律性を育て、リーダーシップを育成する。
- ア 生徒実行委員会による学校行事の運営を進める。
 - イ 自主性を尊重した部活動の運営を推進するとともに、学習と部活動の両立を図る。
 - ウ 文化系部活動振興の一環として、科学系部活動を統合する組織により、探究活動の深化・発展を図る。
- ※学習と部活動の両立ができている生徒が、70%以上になることをめざす。
- (2) 全教職員による生徒指導によって規範意識やマナーの向上を図り、よりレベルの高い「規律ある進学校」をめざす。
- ア 挨拶、遅刻、規律ある服装・頭髪、交通ルールの遵守等の指導を充実する。
- ※遅刻数は2,300以下をめざす。
- (3) 体験を重視した人権教育を通じて人権感覚を育て、人権問題の解決に向けた態度の育成を図る。
- ア フィールドワークや当事者との交流の機会を充実する。
- (4) 配慮を要する生徒へのきめ細かな指導を行い、特に不登校の予防と不登校生徒へのケアに努める。
- ア 教育相談室を中心に、配慮を要する生徒の情報を迅速に収集して関係教職員が共有するとともに、スクールカウンセラーや専門機関との緊密な連携に努める。

4 研修・研究活動の充実

- (1) 教職員が相互に高めあう職場環境づくりを進める。また、学校を挙げて若い教職員を育てる体制づくりを進める。
- ア 教科会議で指導方法や指導内容、教材、評価等について研究する。
 - イ 校内研修を充実し、校外研修の報告を徹底する。
 - ウ 「育成プログラム」に沿って計画的な研修を実施する。

5 組織的な学校運営の推進

- (1) 首席・主任・部長を中心としたミドルアップ・ダウンを一層活性化するとともに、分掌主導の学校運営を推進し、学校の組織力向上を図る。
- ア 分掌・学年・教科・委員会等の会議を活性化するとともに、課題に応じて適宜、分掌・委員会主導のグループセッションを開催する。
 - イ 分掌・委員会は「学校経営計画」の具体化にあたって、学年・教科に対して方針を提示するなどリーダーシップを発揮する。
- (2) 学校経営計画を踏まえた各組織目標のPDCA（マネジメント）サイクルを効果的に運用し、学校目標の高いレベルでの達成をめざす。
- ア 分掌・学年・教科・委員会は、それぞれの目標とその進捗状況及び達成状況を職員会議等に報告する。

6 開かれた学校づくりと広報活動の推進

- (1) 学校教育自己診断、学校協議会、学校評価、学校経営計画を有機的に連関させることで学校運営の改善を図る。
- ア 学校協議会からの意見や学校評価の結果を学校運営に生かすとともに、評価結果を広く公表する。
- (2) 学校運営について保護者・府民への説明責任を果たすためHP等の充実を図る。また、中学生・保護者等を対象とした広報活動を充実する。
- ア 保護者との連携を強化するとともに、学校見学会や各種説明会を開催する。

7 教育環境の整備と安全で安心な学校づくり

- (1) 教育の場にふさわしい環境の整備に努める。
- ア 環境整備の一環として、教室、廊下、職員室、準備室等の清掃の徹底に努める。
 - イ 定期的な安全点検を実施して施設・設備の改善に努める。
 - ウ 教育支援協議会等の支援も得て施設・設備の充実に努める。
 - エ 教職員が働きやすい職場環境づくりに努める。
- (2) 防犯体制を強化し、「いのち」を大切にする教育と人権に配慮した生徒指導を一層推進する。
- ア 防犯・防災訓練を充実し、生徒・教職員の危機管理意識の向上を図る。
 - イ 心肺蘇生法・熱中症予防等の講習、薬物乱用防止教育の充実を図る。
 - ウ 携帯に関する指導を徹底するとともに、体罰・いじめ・セクハラの生じない学校運営と指導に努める。
 - エ 個人情報の取扱に関する内規の周知徹底を図り、個人情報の管理を徹底する。

【学校教育自己診断における結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成27年12月～27年12月 実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学習指導等】 授業アンケートの実施と振り返り、研究授業、相互の授業参観により、授業の改善充実と学力の定着、自学自習力の育成を重点課題として取り組んだ。また、アクティブラーニングを実践している先進校への視察（岩手県・東京都）に7名の教員を派遣した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒による授業評価（12月実施）では、5教科の授業理解度は1年73.6%、2年73.9%、3年85.8%であった。授業難易度は1年80.7%、2年79.8%、3年88.5%であった。興味関心の高まりは1年70.6%、2年71.6%、3年85.1%であった。知識・技能の習得は1年76.6%、2年74.3%、3年87.3%であった。一方、別途行った生徒調査では「現在の授業に満足している」生徒は63%、「勉強していて楽しい」生徒は、3年は73%、2年で57%、1年は61%である。教員調査では、「生徒の実態をふまえ、参加体験型の学習を行うなど、指導方法の工夫・改善を行っている」の肯定的回答は63.6%に減少した。特に1・2年に対して生徒の知的好奇心を喚起するなどの魅力的な授業の工夫がより一層求められる。 教員調査では「到達度の低い生徒に対する指導」や「学習意欲の高い生徒に対する指導」といった個に応じた指導について、肯定的回答がそれぞれ72.7%と80.0%であったが、生徒調査では「一人ひとりの学力や到達度に応じた授業」に対する肯定的回答は52%であった。一方、「授業内容をより深く学んだり、理解できていないところを補う講習や補習が開講されている」と76%の生徒が答えている。一斉授業の中では個に応じた指導に限界があるため、放課後の補習・講習や質問会が重要である。 生徒による自学自習時間調査（11月実施）では、平日で平均して1年73分・2年66分、1日の自学自習時間1時間未満の生徒が1年30%・2年35%であった。自己診断における「家庭学習をしっかりと行っている」1年50%・2年は53%、「予習をたいていやっていく」1年は24%・2年は45%となっている。また「学習と部活動との両立ができていく」1年は53%・2年は56%と学習と部活動の両立に苦労している様子がうかがえる。部活動との両立、自学自習力の育成が課題である。<u>生徒に主体的・能動的に取組む姿勢を育むことにより、時間のマネジメントや予習復習にしっかりと取り組ませる必要がある。</u> <p>【生徒指導等】 高い進路目標の実現と、行事・部活動を通じた豊かな人間関係の醸成を柱に取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒調査では「部活動やHR委員としての活動を熱心に行っている」が80%、「学校行事には進んで参加し、楽しんでいる」が88%であった。保護者調査の「部活動にやりがいを感じている」81%、「学校行事にやりがいを感じている」84%であった。教員調査の「行事が生徒にとって魅力あるものとするために工夫・改善を行っている」85.5%、「生徒が達成感を得られるよう部活動の活性化について工夫を行っている」81.8%であった。行事・部活動等を通じ、より生徒の自主性、自律性を育て、リーダーシップを育成できるよう継続して取り組んでいく。 教育相談について、教員調査では「体制が整備され、生徒は学級担任以外の教員とも相談することができる」と回答した教員が、78.1%。多様な生徒の悩みに対応できる体制の整備と、相談しやすい雰囲気づくりに継続して取り組んでいく必要がある。 <p>【学校運営】 学校の組織力向上と開かれた学校づくり、広報活動の推進を柱に取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 分掌・学年・教科・委員会は、5月に学校経営計画を踏まえた組織目標を設定、10月に目標の進捗状況報告、2月に目標の達成状況を職員会議等に報告し、学校目標の高いレベルでの達成をめざした。教員調査では「教育活動全般にわたる評価を行い次年度の計画に生かしている」の肯定的回答は3.6%減ったが70.9%である。 定例教科会議で授業評価アンケートの「振り返り」や研究授業などを実施した。教員調査の結果、「年間の学習指導計画について、各教科でよく話し合っている」は74.6%だが、「教員の間で授業方法等について検討する機会を積極的に持っている」は13.5%減り47.3%になった。「評価の在り方について話し合う機会がよくある」は24.9%増えて77.8%になった。<u>指導内容、指導方法や評価等について、話し合う機会をどう確保するかが課題であり、実践につながる情報提供といった支援も必要であると考える。</u> 広報活動には引き続き積極的に取り組んだ。保護者調査の「生野高校に進学させてよかった」は、昨年と同じ93%であった。また、生徒調査においても、「後輩に生野高校を薦めたい」は例年なみの70%であった。 	<p>第1回（7月3日） ◇開催前にオーストラリア FCAC の生徒たちが受ける授業を見学。1年のイングリッシュキャンプを見学していただいた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 平成26年度学校評価について 生徒たちの自学自習力の育成が課題 平成26年度GLHS評価について 全体で評価「AA」。教員の指導力向上が今年の重点項目 平成27年度学校経営計画について SSH指定2期目スタート、評価方法を確立したい。 学校協議会に対する保護者の意見書 0件 <p>★全般的な意見</p> <ul style="list-style-type: none"> 国公立大学の進学率の対象を明確にした方がよい。 通学時のトラブルについて、地域の町会との話し合いをもたれたらどうか。 <p>第2回（12月2日）</p> <ol style="list-style-type: none"> 学校経営計画の進捗状況について GLHS事業の取組みの進捗状況について SSH事業の取組みの進捗状況について 第1回目授業評価アンケートの結果について 平成28年度使用教科用図書選定について 学校協議会に対する保護者の意見書 0件 <p>★全般的な意見</p> <ul style="list-style-type: none"> 自学自習：目標達成できていない生徒へ個別対応をすればどうか。1年始めが重要。 <p>第3回（2月23日）</p> <ol style="list-style-type: none"> 今年度の学校評価について GLHS評価シートについて 学校教育自己診断結果について 自己診断結果はこのまま出すのではなく、切り取ったりもっと丁寧に分析して保護者にだすべき。 第2回授業評価の結果について 次年度の学校経営計画について 1年からの学習時間の確保について、1年の始めに学習習慣を身につけさせる対策を検討中。遅刻数の目標の1500は多いのかわかりにくい。1日何人にすればどうか。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 () 内はH26実績	自己評価
1 高い知性と確かな学力の育成	<p>(1) 授業の充実改善と基礎学力の定着、自学自習力の育成</p> <p>ア 生徒による授業評価、研究授業、相互の授業参観の実施</p> <p>イ 指名補習の実施、「学習と生活のスタンダード」を活用した家庭学習の充実</p> <p>ウ 主体的・協働的に学ぶ姿勢の育成</p> <p>(2) 自ら学び、考え、判断し、行動する力を育成</p> <p>ア GLHS事業やSSH事業の活用</p> <p>イ 情報リテラシーの向上</p>	<p>(1)</p> <p>ア 6月と12月に生徒による授業評価を実施し、その結果をもとに教科で対策を協議する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各教科で年間最低1回の研究授業を実施する。 全教員が年間最低2回の授業参観を行う。 <p>イ 1・2年生を対象に一定期間週1回程度の指名補習等を実施する(国・数・英)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「学習と生活のスタンダード」を踏まえ、一人ひとりの生徒に学習計画を作成させ、限られた時間を無駄なく活用する生活を指導する。 定期的に学習時間等の実態調査を行い、家庭学習の時間等を把握する。 <p>ウ 主体的・協働的に学ぶ姿勢を育成するための学習・指導方法等を研究する。</p> <p>(2)</p> <p>ア 「探究」の校内発表会を実施し、校外発表会に参加する。その際、SSHの発表では、英語による発表を奨励し、海外科学研修で発表を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> SSH校外研修、海外語学研修、海外科学研修、イングリッシュキャンプ、TOEFL iBT チャレンジ講座等を実施する。 オーストラリア FCAC との相互交流を始める。 英検、漢検の受験を奨励する。 TOEFL iBT を扱った授業(H28年度より実施)の導入の準備をする。 <p>イ 教科科目の授業及び「探究」においてICTを積極的に活用するとともに学校図書館利用を進める。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・授業評価における授業理解度 1年70%以上(71.2%) 2年80%以上(78.1%) 3年85%以上(86.6%)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己診断(生徒用)の「現在行われている授業に満足している」65%以上(65%) <p>イ・補習を連続して受講する生徒25%以下</p> <ul style="list-style-type: none"> 1・2年の平日の自学自習時間 1・2年とも前期90分以上 2年後期120分以上 (1年66分・2年98分) 平日の自学自習時間1時間未満の生徒の割合30%以下 (1年37%・2年10%) 自己診断(生徒用)の「家庭学習をしっかりと行っている」65%以上(64%) <p>ウ・自己診断(生徒用)の「勉強していて楽しい」1・2年60%以上</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己診断(生徒用)の「特に印象に残っている授業がある」1・2年60%以上 <p>(2)</p> <p>ア 各事業の参加者の満足度80%以上</p> <ul style="list-style-type: none"> 英語検定2級取得率50%以上(43.9%) <p>イ 電子黒板の効果的な活用法の校内研修</p> <ul style="list-style-type: none"> 一ヶ月2冊以上の読書(28%) 	<p>(1)</p> <p>ア・6月に第1回授業評価実施後、個人と各教科で「振り返り」を実施し、後期の授業理解度は向上。1年・3年は目標達成(○)、2年は目標達成せず(△)。自己診断における授業満足度はほぼ目標達成(○)。次年度はアクティブラーニングの視点からの充実改善に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業理解度(5教科)①6月②12月 ① 1年72.1%、2年73.3%、3年84.8% ② 1年73.6%、2年73.9%、3年85.8% 自己診断における授業満足度は、63% <p>イ・数学(1・2年)で週1回指名補習実施。連続受講生徒 1年2.5%、2年1.1%(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員室前質問コーナーで随時個別指導。 生徒手帳に「生活のスタンダード」を示し、限られた時間を無駄なく活用するよう指導。平日の平均自学自習時間は、1・2年共目標に届かず(△)。1時間未満の生徒の割合は2年は目標達成(◎)、1年は30%を超えた(△)。1・2年の自学自習力の育成は大きな課題。 平日の平均自学自習時間 7月：1年67分、2年65分 11月：1年73分、2年66分 100分達成率：1年32.5%、2年26.8% 1月：1年66分、2年89分 平日の自学自習時間1時間未満の割合 7月：1年32%、2年37% 11月：1年30%、2年35% 1月：1年37%、2年20% 「家庭学習をしっかりと行っている」割合：62% <p>ウ・アクティブラーニング実践先進校視察(岩手県・東京都へ7名)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「勉強していて楽しい」割合：59%(○) 「印象に残っている授業ある」割合：51%(△) <p>(2)</p> <p>ア・「探究」1・2年校内発表会実施。2年「探究Ⅱ」発表を2年普通科・1年全員に見学させた。理系では、40班中30班が英語で発表。校外発表会の大阪サテライトに9班33名参加、他の発表会に111名参加。</p> <p>H28年3月オーストラリアSSH研修と台湾研修において、発表交流会を実施。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> GLHS、SSH事業を活用した取組みの満足度(◎) SSH校外研修 95.1% オーストラリア語学研修 100% オーストラリアSSH研修 95% 台湾研修 100% イングリッシュキャンプ 76% TOEFLチャレンジ講習参加 24名 6月オーストラリアFCACより20名来校 英検 2年 2級取得 166名 46.2%(○) (2級1次合格 188名 55.1%) 1年 準2級合格 251名・82% 漢検 100名受検 TOEFL授業：H28年度シラバス作成 <p>イ・学校図書館の利用については、図書選定の工夫・特集展示・図書便り発行など、利用増進のための取組を行ってきた。図書館の利用は多いが、貸出冊数は昨年同時期の91%、1カ月2冊以上の読書をしている割合は、26%で目標には届いていない。(△)</p>

府立生野高等学校

<p>2 高い志の育成と国立大学への進学実績の向上</p>	<p>(1) 高い志と明確な目的意識の育成、計画的な講習による進路希望の実現 ア 計画的な指導と情報提供による主体的な進路実現の支援 イ 探究活動やSSH事業による興味関心の深化 ウ 京・阪・神大をはじめとする国立大学を目標とする指導 エ 進路指導部を中心に各学年で計画的な講習を実施</p>	<p>ア 分掌と学年が連携して進路HR、一日総合大学、大学見学会等を実施する。また、社会の第一線で活躍する先輩等の講演会を実施する。 イ 生徒の興味関心に応じたテーマの設定、放課後の活動をサポートする。 ウ 高い目標を持ち最後まで諦めない指導を継続する。 ・センター試験対策を充実する（授業の改善充実と3年講習を5教科で実施） エ 3年は平日と土曜日、長期休業に実施し、1・2年は長期休業を中心に実施する。</p>	<p>ア 講演会、見学会等参加者の満足度 80%以上 イ 探究活動やSSH事業の活動を通して進路について考える機会が増えた割合 70%以上 (36%) ウ センター試験 5教科受験者 80%以上 (81.4%) ・国立大学進学率 35%以上 (37.5%) エ 3年平常時 20講座以上 1・2年は国・数・英3教科で実施</p>	<p>ア 分掌と学年が連携し計画的に実施した。(○) 1・2年夢ナビ 参加者 <u>311名</u> 2年1日総合大学 満足度 <u>94%</u> 阪大ツアー <u>34名</u>参加 京大キャンパスガイド <u>14名</u>参加 イ <u>42%</u> ウ・センター試験出願率 <u>96.0%</u> 5教科受験率 <u>86.4%</u> (◎) 国立大学進学者数 (現・浪合計) <u>187名</u> 進学率：(現役) <u>51.9%</u> エ・3年講習は進路部が中心になって組織的に実施。1・2年は学年や教科で計画的実施。(○) 3年 平常時 <u>のべ23講座</u>実施 2年 <u>国、数、英</u> 夏休み講習実施 1年 <u>国、数、英</u> 夏休み講習実施</p>
<p>3 豊かな人間関係を醸成する行事・部活動の振興と生徒指導の充実</p>	<p>(1) 豊かな人間関係と自主性・自律性・リーダーシップの育成 ア 生徒実行委員会による学校行事運営 イ 自主性を尊重した部活動の推進、学習と部活動の両立 ウ 科学系部活動のさらなる活性化 (2) 「規律ある進学校」の実現 ア 規範意識・マナーの向上 (3) 人権教育の充実 ア 体験重視の人権教育 (4) 配慮を要する生徒へのきめ細かな指導 ア 情報の迅速な把握と共有化、関係機関との連携</p>	<p>(1) ア 体育祭、文化祭、合唱コンクール等の行事を極力生徒自身に企画・運営させる。 ・リーダー講習会を実施する。 ・他校執行部との交流、ボランティア活動など、学校外への働きかけを意欲的に行う。 イ 顧問の指導の下、生徒自身に活動のあり方を考えさせることにより、自主性と自律性の向上をめざす。 ・「生活のスタンダード」を踏まえ、学習と部活動の両立を図る。 ウ 既存の部と同好会を束ねる「科学系クラブ連合」により探究活動の深化・発展を図る。 (2) ア 全教員による挨拶、遅刻、規律ある服装・頭髪、交通ルール遵守等の指導の充実 ・生徒の地域活動（清掃活動等）を推進する。 (3) ア フィールドワーク、当事者との交流機会の充実 (4) ア 年3回の欠席調査や学年会議等で情報を把握、ケース会議を随時開催して情報の共有化を図り、指導方法を検討する。 ・保護者の協力を得て、スクールカウンセラー、府立高等学校適応指導教室や専門機関と緊密に連携して指導にあたる。 ・教育相談室の整備を図る。</p>	<p>(1) ア 各行事の満足度・達成度 85%以上 イ 部活動に対する満足度 80%以上 (82%) ・自己診断 (生徒用) の「学習と部活動の両立ができている」60%以上 (57%) ウ 科学系部活動参加者による発表 (2) ア 遅刻数を 2,300 以下 (1947) (3) ア 事後のアンケート調査での肯定的評価 70%以上 (4) ア 30 日以上の欠席者のうち欠席理由が不登校による者の数を前年度より減らす (9名)</p>	<p>(1) より生徒たちが自ら企画運営し、達成感を感じることができる自治の実現に向け、指導した。 ア・各行事満足度 (◎) 体育祭 <u>97%</u>、文化祭 <u>96%</u> 2年合唱コン <u>96.6%</u> 1年合唱コン <u>91%</u> 2年修学旅行 <u>99%</u> ・リーダー講習会 <u>117名</u>参加 ・東日本大震災復興学習 (2回目) イ 部活動代表者会議等で、学習や時間のけじめを含め生徒自身に活動のあり方を考えさせた。 部活動に対する満足度 <u>83%</u> (○) 学習と部活動の両立 <u>56%</u> (△) ウ 物理同好会：青少年科学の祭典で入賞 学生科学賞応募 <u>1件</u> 科学系リベルック参加者 生物 <u>29名</u>、物理 <u>9名</u>、数学 <u>15名</u> 科学の甲子園参加 京都・大阪数学コンテスト <u>11名</u> 参加 京都数学クラブリ <u>2名</u> 参加 (2) ア 昨年に続き、生指部を中心に登校指導の実施、保護者との連携及び生指部による段階的指導により遅刻は大幅減 (◎)。前年比 <u>38.5%減</u> 遅刻総数 <u>1198</u> (3) ア 1年 リバティおおさか 肯定度 <u>90.4%</u> 1・2年人権講演会 肯定度 <u>84.7%</u> 3年人権講演会 肯定度 <u>100%</u> (◎) (4) 日々の情報交換学年会議等で情報を把握し、きめ細かな指導に努めた。(○) 30日以上欠席者 <u>1年 0名、2年 1名、3年 2名</u></p>